

資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流 [編集復刻版]

関連図書

※内容見本送呈

表示価格はすべて税別

◎龍谷大学アジア仏教文化研究叢書1

編者

龍谷大学アジア仏教文化研究センター

「戦時下「日本仏教」の国際交流」研究班

中西直樹(代表)・林行夫・吉永進一・大澤広嗣

推薦

赤松徹眞・楠淳澄

◆第1期

汎太平洋仏教青年会大会関係資料 全2巻

体裁ⅡB5判・上製・総1,008頁

第1巻 『第一回汎太平洋仏教青年会大会並会議紀要』

汎太平洋仏教青年会連盟、一九三二(昭和六)年

『兄弟』第二巻第二号 仏誕二千五百年紀奉祝・第二回汎太平洋仏教青年会大会記念号

北米仏教青年会連盟・北米仏教女子青年会連盟編・発行

一九三四(昭和九)年

第2巻 『第二回汎太平洋仏教青年会大会紀要』

全日本仏教青年会連盟、一九三五(昭和一〇)年

『第二回汎太平洋仏教青年会大会記念』(写真帖)

全日本仏教青年会連盟編、仏教写真通信社、

一九三四(昭和九)年

『現代仏教批判』(抄録)

浅野研真著、構成館書房、一九三六(昭和一一)年

昭和十八年一月 大日本仏教青年会連盟要覧

大東亜仏教青年会準備事務局、一九四三(昭和一八)年

定価Ⅱ本体48,000円十税

ISBN 978-4-8350-7857-1

刊行Ⅱ2016年2月

◆第2期

『海外仏教事情』(一九三四〜四四年、国際仏教協会発行) 全3巻

刊行Ⅱ2017年3月予定

◆第3期

『国際仏教通報』『日華仏教』『支那宗教事情』『東亞宗教事情』 全3巻

刊行Ⅱ2018年3月予定

中西直樹編・解題  
仏教海外開教史資料集成

本資料集成は、ハワイ・北米・南米における膨大な仏教開教関係の記録であり、仏教教団の海外の現状と歴史を検討するための、必要不可欠な資料集である。

推薦Ⅱ大村英昭・坂口満宏

〈ハワイ編〉全6巻

A5判・上製・総3,642頁・

揃本体120,000円十税

〈北米編〉全6巻

A5判・上製・総3,372頁・

揃本体120,000円十税

〈南米編〉全3巻

B5判・A5判・

上製・総1,526頁・

揃本体60,000円十税

中西直樹著

仏教海外開教史の研究

本書は「仏教海外開教史資料集成(ハワイ編・北米編・南米編)」に収録した解題と収録内容一覧を一冊にまとめたものである。

A5判・並製・120頁・

本体2,000円十税

不二出版

T113・0023  
東京都文京区向丘1-2-12  
電話03・3812・4433  
ファクシミリ03・3812・4464  
振替00160・294084

一九三三年三月、国際連盟を脱退した日本は、やがて出口の見えない戦争へと突き進んでいった。国際的に孤立した状況のなかで、日本仏教の関係者たちは、欧米の仏教者・研究者との連絡の緊密化を図り、アジア諸国の仏教勢力との協力提携を目指した。その事業は、外務省や文部省、軍部からの支援を受け、基本的に国策に順応する方向性をもっていたことは否定できない。しかし、広範囲かつ大規模に及ぶその事業には、さまざまな立場の人物が関わり、その活動も多様な側面を有していた。いま、日本の民間レベルの国際交流のあり方を問い、日本仏教の国際化を考える上で、これらの事業の検証が求められているといえよう。本資料集は、そのための必要不可欠な文献を収録したものである。

資料集・戦時下の国際交流 [編集復刻版]

◎龍谷大学アジア仏教文化研究叢書1

編者

龍谷大学アジア仏教文化研究センター

「戦時下「日本仏教」の国際交流」研究班

中西直樹(代表)・林行夫・

吉永進一・大澤広嗣

推薦

赤松徹眞・楠淳澄

第1期

汎太平洋仏教青年会大会関係資料

全2巻

体裁ⅡB5判・上製・総1,008頁

定価Ⅱ本体48,000円十税

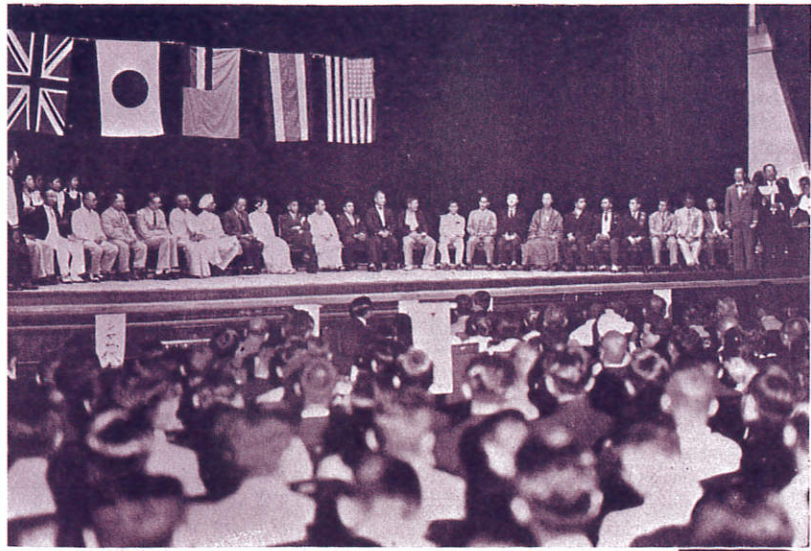
刊行Ⅱ2016年2月

不二出版



第二回汎太平洋仏教青年会大会ポスター

東京歓迎會（日比谷公會堂）と大會第一日  
The Reception at Hibiya Auditorium and the General Meeting on the First Day



ステージに着座せる各國主席代表  
Chief Delegates on the Stage.



推尾耕臣博士（日本佛敎徒代表）の挨拶  
Dr. Benkyō Shio, representing the Buddhist Communities of Japan, Salutes the Delegates



武藏野女子學院「光明皇后」劇  
'Kōmyō-Kōgō', a Buddhist Drama, presented by the Musashino-Joshigakūin Girls' School



佛敎女學校聯盟合唱團  
The Choir of the League of Buddhist Girls' Schools



築地本願寺合唱團  
The Choir of the Tsukiji Hongwanji Temple



大會第一日各國代表の入場  
Delegates arrive at the Tsukiji Hongwanji on the First Day of the Meeting

滿洲代表の登録  
Manchukuo Delegates register their Names



『資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流』は、第一期に汎太平洋仏教青年会大会関係資料（全三巻）、第二期に復刻『海外仏教事情』（全三巻）、第三期に復刻『国際仏教通報』『日華仏教』『支那宗教事情』『東亞宗教事情』（全三巻）の刊行計画で、編集代表は龍谷大学文学部教授の中西直樹氏である。

さて、第一期刊行の資料は、戦前に仏教者が開催した国際大会である汎太平洋仏教青年会大会の記録を中心に編集されている。この大会は、第一回大会が一九三〇（昭和五年）年にハワイで、第二回大会が一九三四（昭和九年）年に東京で開催された。戦前の国際大会として大規模なものであり、その実態を検証していくことは、民間レベルの国際交流のあり方を問い、日本仏教の国際化を考える上でも意義深いと言えよう。

第二期の『海外仏教事情』は、一九三四年八月に国際仏教協会から創刊された。創刊号には、会長井上哲次郎の「国際仏教協会の設立に際して」、高楠順次郎の「海外仏教事情」に就いて」などが掲載されている。雑誌の名が示す通り、世界各地の仏教事情、ことにアジア各地についての特集記事が生まれ、日本仏教の活動のみならず、当時の現地宗教事情を知る上でも貴重な資料である。

第三期収録の『国際仏教通報』は、一九三五（昭和一〇）年四月に国際仏教通報局から創刊された。全日本仏教青年会連盟の一セクションである国際仏教通報局の機関誌であり、世界各国の仏教者・仏教研究機関との情報交換を記した貴重な資料である。このほか第三期には、中国仏教との交流を知る上で欠かせない『日華仏教』『支那宗教事情』『東亞宗教事情』も収録されている。

本資料集は、十五年戦争下で日本が「大東亜共栄圏」を構想するなか、日本仏教がアジア各地の仏教とのネットワーク構築・形成を模索した軌跡を余すことなく伝えるものである。二二世紀の現在、ヒト・モノ・カネが国境を越えて錯綜するグローバル化社会に直面して、キリスト教文化を背景としたグローバルスタンダードへの適応が求められている。多様性や包摂性が失われる危惧が指摘されている。平和な世界形成に仏教の果たすべき役割が大きくなっていく状況で、その意義を問う上でも本資料集は価値あるものと考えられる。

『資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流』推薦文

赤松徹眞（龍谷大学学長・本願寺史料研究所所長）

龍谷大学アジア仏教文化研究叢書の創刊に際して

楠 淳澄（龍谷大学アジア仏教文化研究センターセンター長）

龍谷大学は、寛永十六（一六三九）年に西本願寺の阿弥陀堂北側に創設された「学寮」を淵源とする大学です。その後、明治維新を迎えると学制の改革が行われ、学寮も大教校と名を変え、さらに真宗学庫、大学林、仏教専門学校、仏教大学と名称を変更し、大正十一（一九二二）年に今の「龍谷大学」となりました。

その間、三十七年もの長きにわたって仏教の研鑽が進められ、龍谷大学は高い評価を得てまいりました。そして平成二十七年四月、本学の有する最新の研究成果を国内外に発信するとともに、仏教研究の国際交流の拠点となるべき新たな機関として、本学に「世界仏教文化研究センター」が設立されました。アジア仏教文化研究センターは、そのような意図のもと設立された世界仏教文化研究センターの傘下にある研究機関です。

世界仏教文化研究センターが設立されるにあたって、その傘下にあるアジア仏教文化研究センターは、文部科学省の推進する「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に、「日本仏教の通時的・共時的研究―多文化共生社会における課題と展望―」と題する研究プロジェクト（平成二十七年度・平成三十一年度）を申請し、採択されました。

本研究プロジェクトは、龍谷大学が三十七年にわたって研鑽し続けてきた日本仏教の成果を踏まえ、これをさらに推進し、日本仏教を世界的視野から通時的共時的にとらえようとするとともに、日本仏教が直面する諸課題を多文化共生の文脈で学際的に追究し、今後の日本仏教の持つ意義を展望するものです。このような研究のあり方を有機的に進めるため、本研究プロジェクトでは通時的研究グループ（ユニットA「日本仏教の形成と展開」、ユニットB「近代日本仏教と国際社会」と共時的研究グループ（ユニットA「現代日本仏教の社会性・公益性」、ユニットB「多文化共生社会における日本仏教の課題と展望」）の二つに分け、基礎研究等に基づく書籍の刊行や講演会等による研究成果の公開などの諸事業を推進していくことになりました。

このたび刊行される『資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流』は、右のような研究プロジェクトの成果の一つであり、「龍谷大学アジア仏教文化研究叢書」の創刊号となります。今後、世界仏教文化研究センターの傘下にあるアジア仏教文化研究センターが、日本仏教をテーマとして国内外に発信する諸成果に、ご期待いただければ幸いです。

汎太平洋佛教青年大會並びに會議紀要

目次

聲 明 書 ..... (一)

會場全景と會場略圖 ..... (2)
開會式に參列せる名士 ..... (3)
佛教青年會歌 ..... (4)
大會、會議幹部 ..... (5)
日本、朝鮮代表橫濱出發 ..... (10)
日本代表團 ..... (11)
米國代表團 ..... (14)

汎太平洋佛教青年會議沿革 ..... (一)
會議決議經過摘錄 ..... (三)
大會プログラム ..... (七)
會議 記 録 ..... (九)

(註) 第一日開會式、第二日一般會議、第三日各部圓卓會議、第四日各部圓卓會議、第五日一般會議、第六日一般會議閉會式
第一部(教育) 第三日 ..... (一六)
第二部(思想) 第三日 ..... (一七)
第三部(事業) 第三日 ..... (一九)
第四部(組織) 第三日 ..... (二〇)
第五部(社會) 第三日 ..... (二二)

挨拶
代表者を迎へて ..... (三三)
ステートメント ..... (三四)
議長就任に當つて ..... (三四)
布哇内に於ける佛青大會の回顧 ..... (三五)

各地佛教青年會現狀報告
北米佛青聯盟現狀報告 ..... (三七)
布哇佛青現狀報告 ..... (三八)
日本佛青報告一般 ..... (四四)
東京、名古屋地方佛青現狀報告 ..... (四六)
京都佛青現狀報告 ..... (四七)
阪神地方佛青現狀報告 ..... (四八)

感謝 錄
各地より寄せられたる祝電及びメッセー ..... (五三)
特別援助者芳名 ..... (五四)

各國代表大會所感
會長 感想 大意 ..... (五五)
汎太平洋佛青會議終る ..... (五五)
佛教の世界的進出の第一歩 ..... (五六)
豫期以上の成功 ..... (五六)
他國の不參加は遺憾に堪へぬ ..... (五六)
新佛教の生れ出づる象徴 ..... (五六)
雜 錄
代表者宿舍割及び大會事務擔任 ..... (五七)
招待會と布哇の夜 ..... (五八)
日本佛青青年聯盟臨時事務所設立 ..... (五八)
佛青講演會 ..... (五九)

モロカイ遊類院慰問 ..... (六〇)
代表の記念放送 ..... (六一)
汎太平洋佛青聯盟組織に關する草案、附事業財政私案 ..... (六一)
青木秀作 ..... (六一)

各國代表者名一覽 ..... (六五)

内 容 見 本

▼「第一回汎太平洋仏教青年大會並會議紀要」1931(昭和6)年

千九百三十四年七月發行

佛誕二千五百年紀奉祝
第一回汎太平洋佛青大會紀念號

兄弟 第二卷 第二號

北米佛教青年會聯盟
北米佛教女子青年會聯盟

昭和十八年一月

大日本佛教青年會聯盟要覽

大東亞佛教青年大會準備事務局